令和６年度　地球温暖化防止に貢献する
ブルーカーボンの役割に関する検討会
第１回　議事要旨

日時：令和 7 年 2 月 26 日(水)13:00～15:00
場所：航空会館

１．ブルーカーボン生態系の温室効果ガスインベントリ報告に係る検討や、「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」の推進、ブルーカーボンの普及啓発、Ｊブルークレジット制度の取組状況、令和７年度の検討会開催方針について、それぞれ参加者より説明した後、意見交換を行った。

２．　意見交換では、参加者から、以下のような意見があった。

（１）温室効果ガスインベントリ報告に係る検討

- ブルーカーボンの吸収量目標達成に向け、官民連携や沖合展開など、取組を強化する必要がある。
- 近年減少している藻場面積の要因としては、モデルに適用した環境データからは、クロロフィル濃度増加による透明度低下等が示唆されるが、引き続きその他の要因も含めた調査が必要である。
- ブルーカーボン生態系の増強技術は既に現場で取り組んでいる海域もあるが、今後は地域ごとの条件に合わせて進めていくことになる。

（２）「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」の推進、ブルーカーボンの普及啓発

- 国内外のイベントを通してブルーインフラ普及啓発を積極的に行っている点は評価できる。今後はブルーインフラの拡大に関する動機づけにつながる広報にして欲しい。
- ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムの運用が始まれば自治体等で活用してもらえるようになることを期待している。

（３）Ｊブルークレジット制度の取組状況

- 計測技術の開発により、「活動の成果」と「自然現象」による藻場の増減の区別を目指している。
- 藻場創出活動における CO2 排出については、今後、養殖等で使用する資材等についても、新規に調達する場合は排出量を検討する必要がある。
- GX-ETS のフェーズ 2 に向けた具体的な議論を今後進めていく。

（４）令和７年度の検討会開催方針について

- 引き続き、ブルーカーボン政策の全体の進捗管理を行うため検討会を開催することとし、必要に応じて、インベントリ報告審査に対応するWGを設置する。

以上